

大学と病院のコラボ “Lib-Cross:りぶくろす” の紹介

勢田 玲生¹⁾、天野 いづみ²⁾

¹⁾日本赤十字看護大学図書館、²⁾日本赤十字社医療センター医学図書室

I.はじめに

“Lib-Cross : りぶくろす”とは、日本赤十字看護大学図書館（以下看護大）と日本赤十字社医療センター医学図書室（以下医療セ）との共同事業の名称である。日本赤十字社が赤十字広報のために推進している“もっとクロス”運動の一環にもなることから、Library 同士のクロスということで 2009 年に命名した。今回は、大学と病院の協力事業の一例を紹介する。

II.共同事業内容の紹介

1) 蔵書の相互利用について

看護大は主に看護分野の資料を、医療セは主に医学分野の資料を積極的に収集する。予算が限られた中で双方の不足を補い、利用者に多くの資料を提供することができる。また資料保存スペースの問題も解消することもできる。

2) 講習会の共同開催

2010 年度は 5 回開催され、2011 年度は 4 回開催を行った。参加者人数・データベースを表に示す（表 1）。講義は医療セ側、実際にパソコンを利用した実習は看護大側と、施設の機能に則した開催形態を目指している。

表 1 講習会参加人数

データベース	2010年度					2011年度			
	医中誌 (5/11)	UpToDate (5/18)	DynaMed (6/1)	Cochrane (6/8)	CINAHL (7/8)	医中誌・ UpToDate (5/16)	医中誌 (5/24)	Cochrane・ CINAL (5/31)	RefWorks (6/7)
開催場所/形態	医療セ(講義)				看護大(実習)	医療セ(講義)	看護大(実習)		
看護大	25	13	8	10	14	10	13	12	10
医療セ	29	26	23	16	0	18	2	2	0
合計	54	39	31	26	14	28	15	14	10

3) 利用マニュアルの共通利用

共同で利用しているマニュアルは、PubMed、医中誌、Cochrane Library、CiNii、電子ジャーナル、リゾルバ、電子ブックの利用方法等がある。マニュアル作成後は双方の利用に合わせ修正を加え、館内配布（冊子）またはHP上で公開（PDF形式）をしている。一方のみが契約している場合でも双方に設置し利用している。

III.これからの“りぶくろす”

開始から1年が経ち、ますます卒前・卒後教育は利用環境に寄与することが大きいと感じている。卒後に影響する大学教育の重要性を認識しつつ、双方がスムーズな交差（クロス）ができるよう努めて行きたい。